

2026年4月5日 ルカ24：1-12

説教題 「必ず三日目によみがえる」

【今日の説教から】

イースターおめでとうございます。主のご復活のゆえに神様をあがめます。

今日の箇所ほど、はっきりと私たちに御言葉を信じてそれに従って生きることの幸いを語っている場所はありません。

私たちは主のお語りになられたことを容易に忘れる存在であることが書かれています。そればかりか、御言葉を聞いてもそれが愚かな話のように思われるという、受け止める私たち自身の無理解や怠慢と傲慢が現れています。

「使徒たちには、それが愚かな話のように思われて、それを信じなかった」

「主イエスのからだが見当らなかった。そのため途方にくれている」人々の心。御言葉にはすべて語られていたのに、それを忘れ、それを大切にせず、聞き従わず、人は結局には途方に暮れるのです。

「そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ。まだガリラヤにおられたとき、あなたがたにお話しになったことを思い出さない。…人の子は必ず罪人らの手に渡され、十字架につけられ、そして三日目によみがえる、と仰せられたではないか」

必ず罪人たちの手に渡され、必ず十字架につけられ、必ず復活する。

「なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか」。イエス様は、死人の中であって生きていらっしゃるお方です。罪人らの手にかかって必ず十字架の苦しみを受けるが、必ず死ぬが、必ず復活する。私たちも罪の世の中で苦勞をし、傷つけられても、必ず復活するのです。

皆様、イースター、主のご復活、おめでとうございます。

温かくなり、桜の花も満開。このよう季節に主のご復活をお祝い出来ますことに感謝いたします。

今日の箇所ほど、はっきりと私たちに御言葉を信じてそれに従って生きることの幸いを語っている場所はありません。

私たちは主のお語りになられたことを容易に忘れる存在であることが書かれています。そればかりか、御言葉を聞いてもそれが愚かな話のように思われるという、受け止める私たち自身の無理解や怠慢と傲慢が現れています。

「使徒たちには、それが愚かな話のように思われて、それを信じなかった」

「主イエスのからだが見当らなかった。そのため途方にくれている」人々の心。御言葉にはすべて語られていたのに、それを忘れ、それを大切にせず、聞き従わず、人は結局には途方に暮れるのです。

24:1 週の初めの日、夜明け前に、女たちは用意しておいた香料を携えて、墓に行った。  
24:2 ところが、石が墓からころがしてあるので、  
24:3 中にはいってみると、主イエスのからだが見当らなかった。  
24:4 そのため途方にくれていると、見よ、輝いた衣を着たふたりの者が、彼らに現れた。

24:5 女たちは驚き恐れて、顔を地に伏せていると、このふたりの者が言った、「あなたがたは、なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか。

24:6 そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ。まだガリラヤにおられたとき、あなたがたにお話しになったことを思い出さない。

24:7 すなわち、人の子は必ず罪人らの手に渡され、十字架につけられ、そして三日目によみがえる、と仰せられたではないか」。

24:8 そこで女たちはその言葉を思い出し、

24:9 墓から帰って、これらいっさいのことを、十一弟子や、その他みんなの人に報告した。

24:10 この女たちというのは、マグダラのマリヤ、ヨハンナ、およびヤコブの母マリヤであった。彼女たちと一緒にいたほかの女たちも、このことを使徒たちに話した。

24:11 ところが、使徒たちには、それが愚かな話のように思われて、それを信じなかった。

本当に人間ほど頑迷な存在はないと知らされます。

全ては御言葉のうちに答えがあるのに、そしてそれらは余すところなく私たちに開示されているのに、私たちはあたかもそれを聞いていない、知らされていないかのようにふるまっているのです。そして「ところが」「ところが」と、事が思うようにならずに驚いたり、不審に思ったり、途方に暮れたりするのです。

今日私たちは、この世界が神様の救いと恵みに満ちているということをもう一度再確認したいと願います。

24:7 すなわち、人の子は必ず罪人らの手に渡され、十字架につけられ、そして三日目によみがえる、と仰せられたではないか」。

この7節の「必ず」という言葉は3つの言葉にかかっています。すなわち、イエス様は「必ず」罪人らの手に渡され、「必ず」十字架につけられ、そして「必ず」三日目によみがえるということです。

「あなたがたは、なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか。」

イエス様は罪人らの手に渡されました。この世界は罪人の世界です。罪にあって死んでいる

者たちの世界です。神の子に手を伸ばして十字架につけてしまえという不法のはびこる叛逆の世の中であり、生ける者の地とは言えません。そんな修羅場に主は降り立たれたのです。

妬みを受け、リンチされ、不法に十字架にかけられる。そのようなことが「必ず」起こるということを主はご存じの上でイエス様はこの地上にお生まれになりました。しかしそのようにして自ら進んでご自分の命をおささげになられた主が神様の御力によってよみがえることも、「必ず」起こることとして定められていました。

使徒 2:22 イスラエルの人たちよ、今わたしの語ることを聞きなさい。あなたがたがよく知っているとおおり、ナザレ人イエスは、神が彼をとおして、あなたがたの中で行われた数々の力あるわざと奇跡とするしにより、神からつかわされた者であることを、あなたがたに示されたかたであった。

2:23 このイエスが渡されたのは神の定めた計画と予知とによるのであるが、あなたがたは彼を不法の人々の手で十字架につけて殺した。

2:24 神はこのイエスを死の苦しみから解き放って、よみがえらせたのである。イエスが死に支配されているはずはなかったからである。

主は死人の世界に住み、人に死をもたらず罪の力から人を解放するために十字架にかかって死なれました。主は死人の世界に住み、罪のある者たちは主に手をかけ、十字架につけましたが、主は黄泉がえりの力によってよみがえらされました。主は自ら復活なさったのではなくて、父なる神様によって復活させられたのです。

24:6 そのかたは、ここにはおられない。よみがえられた(ギリシャ語原文では「よみがえらされた」)のだ。

ここに私たちへの真理があります。

マタイ 16:21 この時から、イエス・キリストは、自分が必ずエルサレムに行き、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され、そして三日目によみがえるべきことを、弟子たちに示しはじめられた。

16:22 すると、ペテロはイエスをわきへ引き寄せて、いさめはじめ、「主よ、とんでもないことです。そんなことがあるはずはございません」と言った。

16:23 イエスは振り向いて、ペテロに言われた、「サタンよ、引きさがれ。わたしの邪魔をする者だ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている」。

16:24 それからイエスは弟子たちに言われた、「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。

16:25 自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのために自分の命を失う者は、それを見いだすであろう。

16:26 たとい人が全世界をもうけても、自分の命を損したら、なんの得になろうか。また、人はどんな代価を払って、その命を買いもどすことができようか。

私たちは罪の世にいます。そこは自分が一番で、人を自分のために犠牲にして、人を自分の踏み台にしても恐れない人殺しの世界です。

しかし神様の真理はここに、イエス様に現れています。

24:7 すなわち、人の子は必ず罪人らの手に渡され、十字架につけられ、そして三日目によみがえる、と仰せられたではないか」。

人は必ず、執念をもってイエス様を自分の手にかけるのです。そこには恐れもためらいもありません。必ずそれを成し遂げるのです。この世界はそれほどに墮落しきった死の世界となってしまったのです。そして主は「必ず」十字架に就かなければなりません。しかしそれはイエス様が罪人たちの手に屈したが故の結果ではなくて、そのような死せる世界に住む、死人の中にあって生きるものを作り出すためでした。

「あなたがたは、なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか。そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ。」

主イエス様は必ず復活なさいます。進んでご自分の命を私たちのあがないとしてささげてください。くださった方のためには「必ず」復活の道が備えられているということを信じましょう。

使徒 2:22 イスラエルの人たちよ、今わたしの語ることを聞きなさい。あなたがたがよく知っているとおりに、ナザレ人イエスは、神が彼をとおして、あなたがたの中で行われた数々の力あるわざと奇跡としるしにより、神からつかわされた者であることを、あなたがたに示されたかたであった。

2:23 このイエスが渡されたのは神の定めた計画と予知とによるのであるが、あなたがたは彼を不法の人々の手で十字架につけて殺した。

2:24 神はこのイエスを死の苦しみから解き放って、よみがえらせたのである。イエスが死に支配されているはずはなかったからである。

へブル 12:1 こういうわけで、わたしたちは、このような多くの証人に雲のように囲まれているのであるから、いっさいの重荷と、からみつく罪とをかなぐり捨てて、わたしたちの参加すべき競走を、耐え忍んで走りぬこうではないか。

12:2 信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つ、走ろうではないか。彼は、自分の前におかれている喜びのゆえに、恥をもいとわないで十字架を忍び、神の御座の右に座するに至ったのである。

12:3 あなたがたは、弱り果てて意気そそうしないために、罪人らのこのような反抗を耐え忍んだかたのことを、思いみるべきである。

24:6 そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ。まだガリラヤにおられたとき、あなたがたにお話しになったことを思い出さない。

24:7 すなわち、人の子は必ず罪人らの手に渡され、十字架につけられ、そして三日目によみがえる、と仰せられたではないか。

24:8 そこで女たちはその言葉を思い出し、

24:9 墓から帰って、これらいっさいのことを、十一弟子や、その他みんなの人に報告した。

私たちはいつも主の言葉を「思い出し」、それを互いに語り合い、生きる糧にしていきたく願うのです。「使徒たちには、それが愚かな話のように思われて、それを信じなかった」と書いてあるようには生きないように、私たちは自分たちが何を信じるものであるのかをいつもはっきりとさせているべきだと示されるのです。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。「人の子は必ず、罪人の手に渡され、十字架につけられ、三日目に復活することになっている」との御言葉に改めてハッとさせられます。主は私たちのために必ず苦しみを受けなければならなかったとのこの言葉。主は必ず私たちのために傷付かれ、命を注ぎだし、十字架についてくださるお方。主は必ず私たちを助けて赦してくださるお方。そしてその主は必ず復活されるお方。あらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。私たちをお用い下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン